

湯築城跡



日本100名城
日本の歴史公園100選

◆湯築城と河野氏の歴史

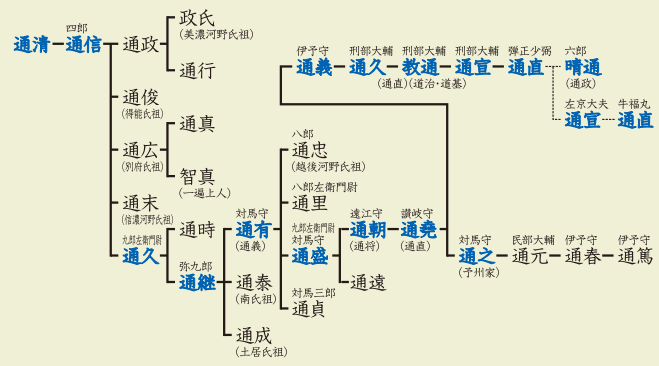
250年以上にわたる、河野氏の栄華。

湯築城は、中世の伊予国の守護であった河野氏が南北朝期から戦国期(14世紀前半～16世紀末)まで、約250年間にわたって居城としていました。河野氏は、風早郡河野郷(松山市北条地区)を本拠として勢力を伸ばした一族で、源平合戦(1180～1185年)では河野通信が源氏方として功績を挙げ、鎌倉幕府の有力御家人となり伊予国の統率権を得ました。

承久の乱(1221年)で没落するものの、通信のひ孫通有が元寇(1281年)で活躍し、一族の力が復活した南北朝期の通盛の時(1335年前後)に河野郷からこの湯築城へ本拠を移しました。その後、有力守護細川氏の介入や一族間の内紛がありましたが、足利将軍家と結びつき近隣の大内・大友・毛利氏などと同盟や縁戚関係を持ちつつ、伊予の守護としての地位を確立しました。庶子家との争いも克服し、通直(弾正少弼)は、湯築城の外堀を築き(1535年頃)娘婿の村上海賊衆(来島通康)との関係を強化しましたが、後に離反し、一族の力は徐々に衰えていきました。最後の当主通直(牛福丸)は、全国統一を目指す豊臣秀吉の四国攻めにより小早川隆景に湯築城を明け渡し、平安時代末期から戦国期(12世紀末～16世紀末)までの、実に400年の長きにわたる河野氏の伊予支配に終止符が打たれました。

※鎌倉時代に時宗を興した一遍上人は、河野通信の孫にあたります。

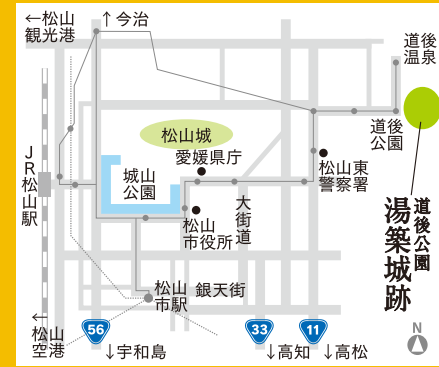
【河野氏略系図】※青文字は当主を示す。※点線は推定による。



河野一族の誇りは、今もこの地に息づいている。

■ご利用案内

- ◎道後公園 湯築城跡
常時開園／入園無料
- ◎道後公園内 展示施設
9:00～17:00／入館無料
休館…月曜(月曜が祝日の場合は翌日)
12月29日～1月3日
- ◎駐車場
●道後公園西口駐車場・北口駐車場
普通車 30分100円(24時間利用可)
●道後公園西口駐車場
観光バス(要予約) 30分160円
(展示施設開館日の8:30～17:30)



- ◎お車で
松山IC…約20分 松山観光港…約40分
松山空港…約30分 三津浜港…約30分
- ◎電車・バスで
伊予鉄市内電車・路線バス「道後公園」下車

■お問い合わせ

湯築城資料館(管理事務所)
TEL089-941-1480
〒790-0857 愛媛県松山市道後公園
FAX089-941-1481 E-mail info@dogokouen.jp
道後公園 http://dogokouen.jp

◆河野氏と湯築城の年表

西暦	河野氏関係	全国
1180	このころ河野通清・通信父子、源氏方につく。	平安時代 源頼朝挙兵
1185	河野通信、屋島・壇ノ浦の戦いに水軍を率いて参加する。	平氏滅亡 鎌倉幕府開く(1192説あり)
1192	河野通信、伊予の地頭御家人の統率権公認される。	
1221	河野通信、朝廷(後鳥羽上皇)方について敗北する。	鎌倉時代 承久の乱
1280	このころ一遍上人が時宗を開く。	文永の役(1274)
1281	河野通有、博多湾で元軍と戦う。	弘安の役
1333	土居・得能・忽那・大祝氏が星ノ岡で幕府軍を破る。	鎌倉幕府亡ぶ 建武の新政(1334) 湊川の戦(1336) 室町幕府開く(1338)
1342	南朝方の忽那氏、湯築城を攻める。	
1364	河野通朝、細川軍と世田山城(西条市)で戦い戦死する。	南北朝時代
1379	河野通堯、細川軍と佐志久原(西条市)で戦い戦死する。	南北朝合一(1392)
1381	河野氏、宇摩・新居両郡を割譲して細川氏と和睦する。	
1435	河野通久、幕府の命を受け豊後国(大分県)へ出兵、姫ヶ獄で戦死する。	
1465	大内政弘軍と河野教通が細川軍を攻め、湯築城周辺で戦う。(井付合戦)	
1467	河野通春(予州家)、応仁の乱が起り大内軍とともに上京する。	応仁・文明の大乱(1467～1477)
1481	河野教通、石手寺を再興する。	
1535	河野弾正少弼通直、湯築城の外堀「濠村堀」を築造する。	室町時代
1542	河野弾正少弼通直・晴通父子が後継者問題で争う。(天文伊予の乱)	代 鉄砲の伝来(1543)
1544	河野氏当主晴通の急死により、弾正少弼通直が湯築城へ入る。	ザビエル、キリスト教を伝う(1549)
1555	村上水軍、厳島の合戦で毛利氏を応援する。	川中島の戦(1553～1564) おぼ狭間の戦(1560)
1568	河野軍・毛利軍、鳥坂峠(西予市)付近で、土佐一条氏・宇都宮軍を破る。(鳥坂合戦)	室町幕府亡ぶ(1573)
1582	来島通総・得居通幸(兄弟)、河野氏に反旗。	安土桃山時代 本能寺の変
1585	河野通直(牛福丸)、小早川隆景に、湯築城を明け渡す。	豊臣秀吉全国統一(1590)

その遺構は、伊予の歴史・伝統文化を物語る。

1 湯築城資料館

発掘調査の概要や河野氏の歴史、城内の武士の生活についてパネルや出土遺物を展示。また、映像で復元整備の様子なども紹介しています。



2 武家屋敷1

発掘の成果をもとに間取りを推定し、当時の工法で復元しました。建物内には、当時の生活の様子や調度品などを再現しています。



3 武家屋敷2

外観復元した建物の内部を展示施設に。中世の道具類や職人の活動、また、湯築城跡の発掘調査の参考とした全国の遺跡を紹介しています。



----- 復元区域
発掘調査の成果をもとに建物や土塀、排水溝、池などを復元し、実物の遺構は保護のため砂で埋め戻しています。

◆湯築城概要

面積	約8.5ha 南北 約350m/東西 約300m
山頂部標高	71m 比高 31m



4 土塁展示室

土塁内部の構造や築造過程がわかる土層の断面は、全国的にも珍しい展示です。



5 庭園区・上級武士居住区

身分の高い上級武士の居住区と推定されるエリアです。広々とした芝生広場には遺構が平面表示されています。(写真右)

6 石造湯釜

(県指定文化財・通称「湯釜薬師」)

湯釜の宝珠には、河野通有の依頼により一遍上人が「南無阿弥陀仏」と書いたとされています。また、河野通直の命による温泉の効験の刻文も残る貴重な文化財です。



◆発掘調査の成果

湯築城は天守の無い中世の平山城 ひらやまじろ

中世の城郭である湯築城は、近世の城郭が持つ石垣や天守が無く、地形を利用して作られた平山城です。築城当初の14世紀前半は、中央の丘陵部を利用した山城でしたが、約200年後の16世紀前半には周囲に外堀を築き、二重の堀と二重の土塁を巡らせた平山城になったと推定されます。

江戸時代に描かれた絵図から、東側が大手(表)、西側が搦手(裏)と考えられています。また、発掘調査が行われた道後公園の南部では、外堀の内側に排水溝をともなった道路が巡っており、内堀との間の平地部のうちの西側は建物礎石・土塀などの遺構から「家臣団居住区」、東側は広い区画内に庭園区をともなう遺構から「上級武士居住区」と見られています。このことから、城内は、機能や格式によって使い分けられていた様子が明らかになり、当時の城内の生活を復元する上で貴重な情報が得られました。

発掘調査は昭和63年に開始され、これまでに公園の南部を中心に約2万㎡について調査をしています。伊予の歴史・伝統文化を育んだ河野一族の栄華は、まだこの地に秘められているかもしれません。

◆国史跡「湯築城跡」

当時の生活がわかる大規模な遺構

中世末まで伊予の国の政治・軍事・文化の中心を担った湯築城は、江戸期には伊予松山藩の管理下に置かれ、明治期からは県立の都市公園や植物園などとして、昭和の時代には動物園としても利用されていましたが、昭和62年の動物園移転後、跡地を発掘調査したところ、中世の平山城としての貴重な遺構が残存するとともに、多種多様な遺物が豊富に出土しました。

湯築城跡は、城郭の堀や土塁などの縄張り遺構が良好に残り、城郭発達史からみても貴重で稀な中世の城跡であること、また中世の主要な守護大名の拠点城郭であることに加え、時代や地域を代表する特色を持つことから地域の伝統技法や工法を使った復元などが評価され、平成14年に国史跡となり、その後日本100名城、日本の歴史公園100選にも選定されています。

「日本の歴史公園100選」に選定されている道後公園。花々や樹木が織り成す四季の景観を史跡散策とともにお楽しみください。



サクラ ジンチョウゲ



サルスベリ アサザ



オミナエシ 紅葉



ツバキ ウメ

もっと知りたい! 湯築城の歴史!
ボランティアガイド **無料**

案内時間 / 9:00~17:00
ここに掲載しきれない湯築城の歴史など、道後公園を巡りながらご紹介します。ご希望の方は、資料館にお申し込みください。